

## 令和7年度から「第4次教育振興基本計画」

「第4次教育振興基本計画」は、令和7年度から令和11年度までの5か年の計画期間になります。今回は、基本理念と基本目標についてお知らせします。

### 基本理念

#### 「夢や希望をもち、大きく崎(未来)をつくる 大崎の教育」

##### 夢や希望をもち：

夢や希望には、長期的な姿を思い描いてもつ夢や希望や、短・中長期的な姿を思い描き、その都度、更新されていくものもあります。現代は将来予測困難な時代であると言われる中であって、子どもたちのみならず、町民一人一人が、それぞれの夢や希望をもち、その実現に向けて、意欲をもって挑戦できる環境を整えていくことはますます重要性を増すことが考えられます。

##### 大きく崎(未来)をつくる：

大崎の2文字を使って、大きく崎(未来)をつくるとしました。大きくは、形・容積・面積などが、広い空間・場所を占めているという意味があります。崎は、海に向かって突き出ている陸の先端という意味があります。まさしく「崎」を「先」ととらえ、これから先のこと、未来のこととしました。小さな未来でなく大きな未来、単なる大崎の未来だけでなく、日本の未来、世界の未来をつくる大崎の教育を推進していきます。そのことは、総合計画にある2030年の大崎町の姿「まち・ひと・しごと 世界の未来をつくる 循環のまち」や未来の大崎町ビジョンマップ「リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ」につながるものです。

### 基本目標

#### 「主体的に学び ともに支え合い たくましい 自立力・社会力を備えた人づくり」

これからは、社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0 時代」、先行き不透明で予測困難な時代が到来されるとされており、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字を取って「VUCA」の時代とも言われています。本町においても少子高齢化、人口減少、グローバル化の進展、地域自治意識の希薄化などの社会の課題とともに、AIやロボットの発達により、労働市場の在り方や働きに必要とされるスキルが今後変容していくことも予想されています。こうした変化の激しい社会を生き抜き、よりよい社会を創り出すためには、多様性を認め、尊重するとともに、自ら主体的に学び、情報活用能力や創造力を生かし、他者とともに支え合い、チームでこれを解決する能力が今一層求められることが予測され、こうした変化にもたくましく対応し、協調していく人づくりが教育に求められています。そのためには、次に掲げる自立力・社会力を備えた人づくりを基本目標にします。

自立力：個性や能力を伸ばし、主体的にたくましく人生を切り拓いていく力

(獲得的ウェルビーイング：自己肯定感、自己実現、夢や希望、「よさ」の伸長など)

社会力：他者とともに支え合い、高め合いながら、持続可能な社会を創り出す力

(協調的ウェルビーイング：人とのつながり、利他性、社会貢献など)